

Topics トピックス

機械関連事業 2005.5 大分県日田市から、バイオマス活用施設 建設工事を受注(神鋼環境ソリューション)

生ゴミや豚ふん尿などの受入、メタンの発酵、エネルギー利用、水処理、たい肥化、脱臭などの設備で構成される、バイオマス活用施設の建設工事を大分県日田市より、6億5,000万円で受注し、本年3月に竣工しました。一日当たりの処理規模は80トンで、自治体向けのメタン発酵施設としては国内最大級です。メタン発酵で発生するガスで発電するとともに、発酵残さから液肥やたい肥を製造し農地に還元します。今後は、焼却施設

との複合型施設の受注拡大も見込まれます。



バイオマス資源化センター

不動産関連事業 2005.9 新神戸駅前プロジェクト概要発表 (神鋼不動産)



新神戸駅前プロジェクト・マンション完成予想図

新幹線新神戸駅前に、神戸市内で最高峰のタワー型マンションを住金興産(株)と関電不動産(株)との共同で建設・発売します。対象となる土地は、2005年2月に神戸市が実施した競争入札により、当社が約36億円で取得したものです。六甲山を背景に海と山を一望できる素晴らしい眺望で、2,000万円台から20,000万円台の価格帯を用意し、幅広い顧客層を対象としています。また、医療法人社団神鋼会の運営による人間ドック専用施設の入居を計画しています。本年、8月に着工し、秋頃の販売開始予定です。

神戸で最高峰とは、建設地の海拔45mと建物高148mを合計した約193mで、2005年9月28日時点で建設工事が公示されている、神戸市内の分譲タワー型マンションの最高の高さという意味です。

建設機械関連事業 2005.10 世界No.1の作業高さを実現した、超大型ビル解体専用機 SK3500D を発売(コベルコ建機)

昨年10月、世界一の解体作業高さ65m超(およそ21階建てビルに相当)を実現した超大型ビル解体専用機 SK3500D の販売

を開始しました。広スパン・低重心で安定性が極めて高いクローラクレーン(200t吊り)の足廻りを採用し、本体重量も327トンに倍増、さまざまな安全装置も装備しています。さらに、高層ビルの解体作業だけでなく、建物高さに応じてフロ

2005(平成17年)

- 5月 ■ 省エネ・能力増強型高速2段スクリュウ冷凍機が第32回日本冷凍空調学会技術賞を受賞
- 中国鉄鋼メーカーと直接還元製鉄事業推進検討開始
- 大分県日田市からバイオマス活用施設建設工事を受注
- 6月 ■ 抗菌めっき技術(KENI FINE)がコロナウイルスに効能があることを確認
- ホストコンピュータの災害対策強化骨子発表
- 7月 ■ 中低温域(200度)の廃熱を世界で初めて90以上の高温水として再利用できる高効率な蓄熱装置を独自開発
- 中国江蘇省江陰市に自動車サスペンション用ばね材の製造・販売会社「江陰法爾勝杉田弾簧製線有限公司」を設立
- 9月 ■ 神鋼不動産「神戸最高峰タワー型マンション」新神戸駅前プロジェクト概要発表

SKD3500D

電子材料・その他の事業

2005.12 安価で耐久性に優れた、「薄型シート状電波吸収体」を開発

現在市販されている電波吸収体の約半分の価格レベルで供給できる安価な電波吸収シートの開発・製造に成功しました。青山学院大学理工学部の橋本教授との共同開発で、鉄鋼製品の製造過程で生じる副産物を原料としています。劣化が少なく、従来の連続成形では困難だった、電波

の振動方向(水平・垂直)に関わらず満遍なく吸収する機能を実現しました。電波の乱反射による、電子機器類の誤作動を回避することを目的に、有料道路や駐車場などでの自動料金収受(ETC)システムや専用狭域通信(DSRC)利用サービス関連で採用が期待されています。



ゴムシート型電波吸収体

10月 ■ 世界初、リアルタイム・高精度で聞きたい音だけを抽出できる音源分離技術を確立

● 超大型ビル解体専用機「SKD3500」を開発・販売開始

11月 ■ 三菱伸銅とクロスライセンス契約の締結

● **12月** ■ 「安価」な薄型シート状電波吸収体の開発

■ 三井鉱山に資本参加

2006(平成18年)

1月 ■ 「アルミニウムスクラップ溶湯中の微細介在物除去における高効率フィルターの開発について」第10回リサイクル技術開発本多賞受賞

3月 ■ 新日本製鐵、住友金属工業と3社覚書締結

● 創立百周年記念コンサート開催

■ 溶接材料生産販売会社「KOBELCO WELDING OF EUROPE B.V.」軟鋼用フラックス入りワイヤ用新規設備導入を決定

■ ジェネシス・テクノロジー東証2部上場

アルミ・銅関連事業

2006.1 「第10回リサイクル技術開発本多賞」を受賞

この度、財団法人クリーン・ジャパン・センターより、「アルミニウムスクラップ溶湯中の微細介在物除去における高効率フィルターの開発について」で、第10回リサイクル技術開発本多賞を受賞しました。この賞は、リサイクル関連の開発

に取り組む研究者や技術者などを対象に研究を奨励する制度として1996年に創設されました。当社は、第1回の「使用済アルミニウム飲料缶(UBC)のリサイクル」について、2回目の受賞となります。

鉄鋼関連事業

2006.3 欧州の生産拠点に向けて、新たな設備投資を実施

本年3月、欧州の生産拠点である、オランダの溶接材料生産販売会社「KOBELCO WELDING OF EUROPE B.V.」(連結子会社)への新規設備導入を決定しました。2007年から軟鋼用フラックス入りワイヤ(主に造船、海洋構造物などの建造に使用される普通鋼鋼材用の溶接材料)

の生産・販売を開始します。同社は、1995年12月からステンレス鋼用フラックス入りワイヤを生産しており、この設備投資による新たな生産品目と合わせた生産量は、年間7,000トンとなる計画で、欧州でのフラックス入りワイヤの生産拠点として最大級となる見込みです。

2006-2008年度グループ中期経営計画

「安定」と「成長」の追求

当社グループは、本年4月に、2008年度を最終年度とする3ヵ年の「2006-2008年度グループ中期経営計画」を策定いたしました。国内トップクラスの収益力の実現と、事業環境の変化に対応できる強い企業体質を築き上げ、収益の「安定」を図り、質的かつ持続的な「成長」を目指すべく、以下の基本方針を掲げ、これに取り組むことといたしました。

1 「オンリーワン製品」の拡販・創出

当社グループ独自の付加価値がユーザーから高く評価されている製品を「オンリーワン製品」と位置付け、マーケット動向を的確に捉えながら一層の拡販に取り組むとともに、顧客や時代のニーズにあった新たな「オンリーワン製品」の創出・育成に努め、売上高に占める比率を2005年度の35%から2008年度には40%以上まで高めてまいります。

2 「ものづくり力」の強化

高い技術開発力、生産技術の高度化、安定生産への対応、それを支える現場の創意と工夫などの総合力である「ものづくり力」の着実な強化を図ってまいります。

その実現に向け、コストダウンに注力するとともに、品質管理・コスト管理を徹底します。また、持続的成長と製品機能の更なる高度化・高付加価値化に向けた設備投資を実施すると同時に、「オンリーワン製品」を製造するために必要な生産技術と研究開発体制の充実を図ってまいります。

3 財務基盤の強化

持続的な成長に向け必要な戦略投資を実行する一方で、財務体質の改善にも継続して注力し、環境変化に対して抵抗力のある強固な財務基盤を築いてまいります。

4 CSR(Corporate Social Responsibility)の推進

グループ全体のCSR活動を体系化するとともに、コンプライアンスの徹底、コーポレートガバナンスの充実に注力してまいります。また、操業改善・設備対応などを通じて環境経営にも積極的に取り組んでまいります。

5 働く喜びと誇りをもてる職場環境の創出

全てのグループ社員にとって安全で快適な職場を確立するとともに、多様な人材を活用していくための環境整備を行なってまいります。また、技能継承・人材育成に向けた取り組みを強化してまいります。

6 グループ経営の強化

「システム・各種情報インフラの統一」や「グループブランド“KOBELCO”の展開」を通じて、グループの強固な一体感醸成とグループ力の底上げを図ってまいります。

7 安定的な株主還元

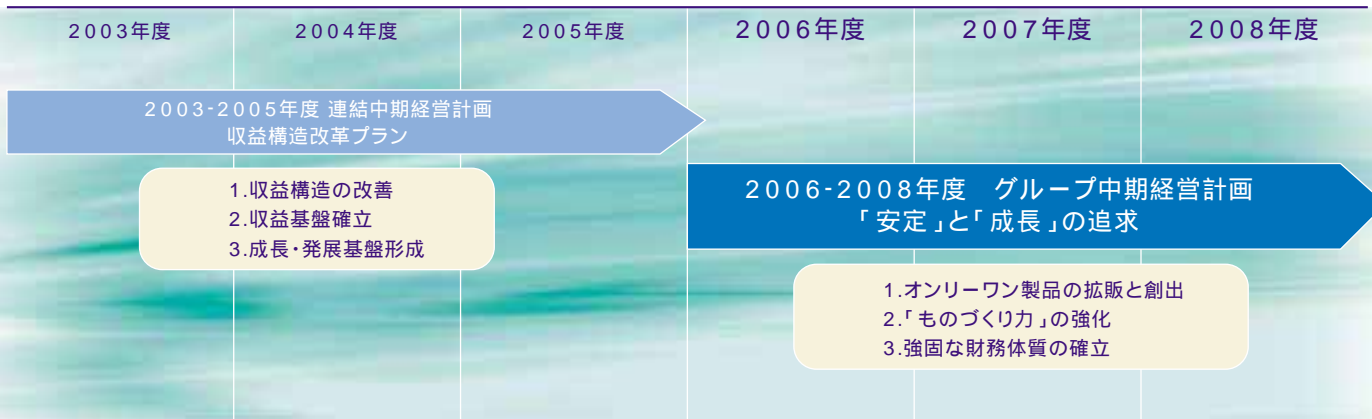
継続的かつ安定的な配当を基本としつつ、各期の業績および配当などを勘案して決定してまいります。業績に応じた利益配分を考慮する上で基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15～25%程度を目安と致します。

財務目標

2005年度		2008年度
売上高	16,673億円	19,000億円程度
経常利益	1,769億円	1,800億円以上
当期純利益	845億円	1,000億円以上
ROA(注1)	4.1%	5.0%以上
有利子負債残高	5,891億円	5,500億円以下
デット・エクイティ・レシオ(注2)	1.2%	0.8%以下

(注1)ROA:当期純利益/総資産 (注2)デット・エクイティ・レシオ:プロジェクトファイナンスを除く有利子負債残高/(資本金+資本剰余金+利益剰余金)

2006-2008年度グループ中期経営計画の位置付け



主要オンリーワン製品リスト

部門	品 種	製 品 ・ 商 品 ・ 事 業
鉄 鋼	線材・条鋼	弁ばね用鋼、懸架ばね用鋼、自動車CH、スチールコード用線材、自動車用棒鋼、軸受線材・鋼線
	厚板	LPG船用低温用鋼、超大型コンテナ船用大入熱鋼、ヒズミレス鋼板、Ni系高耐候性鋼、建築用ハイテン
	薄板	自動車用ハイテン(590Mpa、590Mpa超)、EG特殊処理、ホーネット
	鑄鉄鋼	組立型クランク軸、一体型クランク軸、ロール
	チタン	純チタン、合金チタン
	鉄粉	磁性用鉄粉、環境用鉄粉、プレアロイ、セグレス・プレミック
	溶接材料	フラックス入りワイヤ(軟鋼・ステンレス)、ノーメッキワイヤ、鉄骨ロボット用溶材、低合金鋼用溶材
電力卸供給		電力卸供給
アルミ・銅	アルミ板	ボトル缶材、自動車パネル材、ディスク材、自動車熱交材
	アルミ押出	自動車バンパー材、車両用長尺大型型材、感光体ドラム用管材
	アルミ鑄鍛	自動車サスペンション用部品、半導体製造装置用チャンパー、航空機用ギアボックス
	銅板	自動車端子・コネクタ用銅板、半導体用銅板
機 械	ハード系	ゴム混練機、タイヤ・自動車用試験機、ポリエチレン/ポリプロピレン用混練造粒装置、ハードコーティング用PVD受託・装置、プロセスガス用スクリュー圧縮機、ギアードターボ圧縮機、中型油冷空圧縮機(KOBELION)、小型蒸気発電装置
	エンジ	石油精製用高圧反応器、LNG関連機器、格子形鋼製堰堤、フレア護岸、ゴムタイヤ式新交通システム、ITmk3、FASTMET、FASTMELT、ミドレックス
	環境	PCB無害化設備、塩ピ・リサイクル、純水等供給事業、消化ガス天然ガス化、メタン発酵設備、循環流動汚泥焼却炉、高濃度汚染土壌処理、汎用攪拌翼ツインスター、水素酸素発生装置
建設機械		環境リサイクル
電子材料他		ターゲット材、半導体検査装置

沿革



当社は、明治38年(1905)9月に、当時の総合商社であった合名会社 鈴木商店が、神戸の鉄鋼会社小林製鋼所を買収し、鈴木商店傘下の神戸製鋼所と改称したことを発祥とし、明治44年(1911)6月に合名会社鈴木商店から分離し、神戸市脇浜一丁目に株式会社神戸製鋼所として設立されました。



昭和29年当時の本社ビル



瀬浜1号高炉火入れ

明治		
38年	9月	合名会社鈴木商店の神戸製鋼所として創業
44年	6月	鈴木商店から独立、資本金140万円の(株)神戸製鋼所として設立
大正		
9年	2月	西海岸工場(神戸製鉄所脇浜地区)を新設
昭和		
12年	7月	東海岸工場(岩屋工場)を新設
14年	10月	長府工場(現在の長府製造所)を新設
17年	4月	大久保工場(現在のコベルコクレーン(株))を新設
24年	5月	当社株式を東京・大阪・名古屋の各証券取引所に上場
28年	11月	高砂工場(現在の高砂製作所)を新設
29年	6月	ファウドラ-社との共同出資により神鋼ファウドラ- (株) (現在の(株)神鋼環境ソリューション)を設立
30年	7月	日本高周波鋼業(株)に資本参加
34年	1月	瀬浜工場(現在の神戸製鉄所瀬浜地区)を新設 (瀬浜1号高炉の火入れにより鉄鋼一貫メーカーとなる)
35年	9月	ニューヨーク事務所を開設 (昭和56年4月に現地法人化、平成元年7月 コウベ スチール USA INC.に統合)
36年	3月	藤沢工場(現在の藤沢事業所)を新設
	10月	茨木工場を新設
40年	4月	尼崎製鉄(株)と合併
42年	4月	秦野工場(現在の(株)コベルコ マテリアル銅管秦野工場)を新設
44年	8月	真岡工場(現在の真岡製造所)を新設
45年	3月	加古川製鉄所を新設(線材・棒鋼に加え鋼板類も生産する総合鉄鋼メーカーとなる)
	7月	西条工場を新設
50年	9月	福知山工場(現在のKOBエ-ルディングワイヤ(株)福知山工場)を新設
51年	11月	シンガポール事務所を開設 (平成2年1月に現地法人化し、コウベ スチール アジア PTE. LTD.となる)

当初は、鑄鍛鋼メーカーとしてスタートしましたが、その後、鉄鋼設備を拡張し、また、アルミ・銅、機械部門を加え、昭和34年(1959)1月には高炉を新設して銑鋼一貫体制を整え、今では、鉄鋼、溶接、電力卸供給、アルミ・銅、機械、建設機械、不動産、電子材料・その他の事業分野を持つ企業グループとなっております。

53年	8月	ロンドン事務所を開設 (昭和59年10月に現地法人化し、コウベ スチール ヨーロッパ LTD.となる)
54年	6月	(株)神戸環境分析センター(現在の(株)コベルコ科研)を設立
58年	7月	油谷重工(株)(現在のコベルコ建機(株))に資本・経営参加
61年	1月	北京事務所を開設(昭和56年2月開設の北京駐在員事務所を昇格)
	4月	神鋼コベルコ建機(株)(平成11年10月にコベルコ建機(株)へ統合)を設立
62年	10月	神戸総合技術研究所(神戸市西区の西神インダストリアルパーク内) 第一期工事(電子技術研究所、機械研究所等の移転)を完了
	12月	播磨工場を新設
63年	4月	ニューヨークに米国総合統轄会社(コウベ スチール USA INC.)を設立



昭和50年代の本社ビル

平成

4年	3月	神戸総合技術研究所第一期工事(化学研究所、高分子材料開発センター (以上、現在の機械研究所)、材料研究所等の移転・拡充等のハイテク実験設備新設)完了
5年	3月	高砂製作所内に産業機械工場を新設
	7月	デトロイト事務所(コウベ スチール USA INC.)を新設
	9月	大安工場を新設
6年	8月	神鋼パンテック(株)(現在の(株)神鋼環境ソリューション)の 株式を大阪証券取引所第二部に上場
7年	1月	神戸本社地区、神戸・加古川両製鉄所など、阪神淡路大震災で総額1,020億円の損害を被る
	2月	震災の影響で全面操業停止していた神戸製鉄所の一部圧延設備が生産を再開
11年	10月	建設機械カンパニーと油谷重工(株)及び神鋼コベルコ建機(株)を統合し、 建設機械の製造・販売事業をコベルコ建機(株)に一元化
14年	3月	神鋼興産(株)と合併
	4月	電力卸供給事業における神鋼神戸発電所1号機の営業運転を開始
16年	4月	電力卸供給事業における神鋼神戸発電所2号機の営業運転を開始 コベルコ建機(株)からクレーン事業を分割し、コベルコクレーン(株)を設立 三菱マテリアル(株)と銅管事業を統合し、(株)コベルコ マテリアル銅管を設立
17年	9月	創立百周年を迎える
	10月	会社分割により不動産事業をコベルコ開発(株)に継承し、社名を神鋼不動産(株)に改称



「神戸製鋼所発祥の地」記念碑